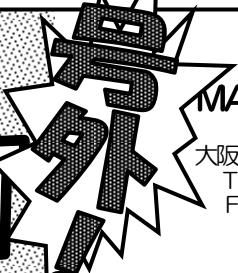


MASUKI INFO. DESK FIGHTING REPORT



No. 163 外
【発行・編集】
MASUKI 情報デスク
増木直美
大阪府豊中市上新田 2-6-25-113
TEL 090-3621-1509
FAX 06-6835-0974
http://mid.parfe.jp/
mid@jewel.ocn.ne.jp

少子化対策は故郷つくいから

京都北山細野の神主 より緊急提言

九頭神社宮司 中村重行

<http://blog.goo.ne.jp/hosonononmihasan>

少子化対策は故郷つくいから

少子化現象が日本の滅亡のようにマスコミでもうるさく叫ばれています。金を出せば少子化現象が止まるわけではありません。女性が子供を産まないのは保育所が足りないからだとか、男にも育児休暇を出さなければとか、学者や役人、政治家が一生懸命に無い知恵をしぼっていますが、少子化はそんな事が原因ではないでしょう。

女性を労働力としてしか見ていない人達の思い違いが原因だと思えます。なぜ結婚するのか？ 子孫を残すためでしょう。少子化が国の存亡に関わるのなら、原点に戻って対策をたてなければ悔いを残すだけではなく日本の国の滅亡につながります。

産業革命以後人間を労働力としてしか考えて来なかったツケが今出て来たのではないのか？ 効率化のために人間本来の役割を無視して来たのが原因です。結婚の話に戻りますが結婚とは男女の性欲を満足させるためだけにあるのでは無い、性欲は子孫を残すための動物としての本能のはずです。その結果子供が授かれば、次には子供を自立させる事(エサを自分でとる事が出来るように)が子供を作った親の役目(本能)だったはずなんです。

ハキチガエタ戦後の教育のために性欲を満たす事が先行してしまい、肝心の子供を自立させる段階を国(学校や保育所)に放り投げってしまった結果です。これは

共産主義(独裁国)の子供は国のものから切り離して独裁者の都合の良いように育てる(飼う?) 政策が軌道に乗っているところとしか考えられません。もう一度本来の子供は親が育てる、という原点に戻らなくては少子化は進む一方です。

結婚式と言ふ儀式は親族や仲間たちにこれから子供づくりと子育てに励みますよと言ふ約束の場として意義が有ったのです。その覚悟も無いのに性欲を満たす事だけに励んだ結果が「出来ちゃった結婚」では大切な後の部分の「子育て」が抜けてしまい、義務感だけが残り産まれて来た子供が疎ましくなり虐待につながっているのです。

人類はアミバーでは無い。進化の頂点にいる人類がアミバーの真似は出来ません。オスがメスに途中で変わる事は出来ないのです。少子化対策が変な方になってしまいました。

自然災害から家族を守る

最近各地で小規模な地震



ログハウス風の我が家(京都市内より約1時間)

が連続して起こっています。京都府でも南部を震源とする地震が続きました。この小さな地震が大震災につながる恐れは今のところ無いようですが地震大国の日本ではどこが大地震の震源地になるか予測ができません。

ほとんどが建物の耐震補強や大地震に堪えられる構造の建物や数十メートルの津波を防ぐ防波堤のかさ上げ建設など天文学的な大予算を伴う対策です。今ある施設やそこに住む人たちの一部を救う事が出来る対策でしょうかありません。特に津波の被害は地震による直接の被害より多くの犠牲者を出しました。地震の予知は難しくても津波の予知は簡単です。津波は海からしか襲いません。人々の住まいを海から遠ざければ良い事です。

東日本大震災の復興住宅も津波の届かない地区に建設しています。何故、判り切ったこの対策を震災前にやらないのでしょうか？近い内に来る事が判っている自然災害に対してまたしても力に対抗しようとしています。愚かな西洋文化の真似をまだやっているのです。

もうボチボチ自然と共生する日本式の対策に戻るべきです。特に国や地域の大方針に決定権を持つ政治家たちは。

昔は日本人は海近くの低地には住んでいなかった。海抜0メートルに近い所に住居を移し始めたのは近世になってからでしょう。江戸も大阪も、恐らく名古屋もそうだったと思います。

地震国と言われる日本で海岸近くに住む事の愚は昔の人は判っていました。戦国時代も山城は作っても海に面した所には居城はありません。津波の恐れのある所には住むための城を構える武将はいなかったのです。東北の被災地の古くからの神社も津波の届かない高台に創建されています(東北地方の津波被害を受けました神社はほとんど後世の創建です)。

日本は四方海に囲まれていますから海洋民族と錯覚している人もいますが、それが間違いの元です。元々は平野の広がる山裾に住居をかまえて暮らして来まし

た。日本人は山の民なのです。

江戸時代から便利さだけを求めて大都市に人口が集中するようになり埋め立て技術の発達で自然災害の恐ろしさに目をツブリ埋め立て地に人々が住むようになったのです。自然を克服出来るという人間の傲慢さが度重なる津波災害を受ける原因なのです。何事も歴史に学ぶと言っ謙虚さは、科学の力で解決する事が出来ると言っ西洋文明の傲慢さを刷り込まれたわが国の指導者と学者のためにまたしても失われてしまいました。

同じ過ちを繰り返さないために国民が行動を起こせば良いのです。家族を守るのが親の役目なのです。どうすれば家族を守れるか？原点に戻って考えて欲しいと思います。

1000万円(500万円でも)で200坪以上の土地に家を建てる

少子化対策に関して思う事を書き出したのに、なかなか本題に到達出来ません。本題に入ります。結婚して、子供を作り、育てて成人になれば親離れさせる。が正しいはず。この正しい方法に沿って話です。

まじめな若い男女に聞いて欲しい真面目な話です。

私の話の目玉は500万円〜1000万円までで200坪の土地を買って家を建てよう。そしてその家と土地で子育てしようと言っ計画です。少子化の原因は人口が大会に集中したからだと言っ私の主張がベースになっています。なぜ大会に人口が集中したら少子化現象が起るのか？ 答えは 大会では夫婦が住まい、子供を作り、子供を育てる家庭が作れないからです。家庭を持つ事が出来ない環境が大会なのです。

家庭とは(家+住まい)と(庭+自然)で「家庭」なのです。「庭+自然の無い家」は「オリ」か「カゴ」です。

「オリ」や「カゴ」でも動物を繁殖させる事が出来ますがそれはペットか食い物にしかありません。自然に放して自立出来る動物ではないのです。

人間は繁殖のために子供を作るのではなく繁殖のために子供を作るのでありません(今、我が国での少子化対策はまさしく繁殖のための対策としか考えられませんが)。

なぜ大会では私のいう家庭が作れないか？ 住まいが高価すぎるからです。自然が無いからです(行政は安全第一の公園を作っ自然とごまかしています)。

とてもじゃないが若い夫婦の財力では都会で家と庭がある家庭など手に入れる事が出来ません。マンションでは子供も2人までが限界です。一人っ子が多いのも特徴です。そして、祖父母4人のペットになっています。

マンションと言っ「カゴ」、一戸建ての家も住まいだけ(有ってもガレージ)で(庭+自然)の無い家しか手に入れる事しか出来ません。それも一生払わなければならないローンを組んでです。ローンが終わった頃には何の価値もなくなる。一生住宅ローンの支払いを気にした人生なんて何の意味があるのですか？ と問いたい。

家を一軒持っただけにこの世に生を受けて来たような人が居るのを見るに付け他に方法が無いのか？と無い知恵を絞っ考えました。行き当たりばったり実践して来た私の経験も含めてもっ良い方法があると言っ事に気が付きました。先日地方再生のために企業誘致をしても従業員が集まらないという記事がありました。アタリ前でしょう！ 地方には年

寄りだけしか住んでいません。地方に企業が進出するのはまだ早い。都会の住人は元々地方から出て来た人々です。もう2〜3世代に渡っ街に住み着き帰るべき故郷を失った人ばかりです。

都会で生まれ育っ若い夫婦に自分たちの世代から子供たちや年老いた両親が帰る事が出来る故郷をムリ無く作る事を考えましよう。金もなく、土地もなく、住まいも無い若い夫婦が子供をいっぱい作っ楽しく暮らす方法があれば国家予算を無駄にバラまく事も無く、移民に頼る馬鹿げた政策も不要です。

なぜ故郷を失くさるのか？

前記しましたように子供作り、子育ては都会では出来ない。その根拠は子育て出来る環境(家庭)が大会では若い夫婦には高額になるために確保出来ないからです。住宅もわが国では需要と供給のバランスの上で規模と価格が決まります。そして、辛うじて大きなスペースに親と同居していた子供も戦後の教育の賜物か親と同居を嫌っ核家族化が一般的になり、バカな相続税のお陰で遺産は分割されてドンドン家は小さくなってしまいました。

私は現在の相続税の決め方(高額になるほど税率が高くなる)には大反対です。理由は先人の貴重な遺産が潰されて行く事です。親や先祖が残した貴重な遺産はその人が購入した時には正当な税金を払っっているはず。それを相続する事は先代の文化遺産としても、その人の子孫は次の時代を守り引き継ぐ義務もありません。それを左巻き達はヒガミ根性で不公平だと声を大にしてるのです。価値あるものを残すために努力しなかつた自分の先代を恨むのが筋なのに努力して子孫に残してくれた他人の親に対するネタ

ミ心からとしか考えられません。だから今の年寄りたちは自分の稼いだ物は自分で使い切ろうと老体にムチウって海外旅行や国内旅行、ブランド品の購入に浪費しています。

また途中でズレましたが元に戻して。都会で子育てに理想的な家庭を持つとしても一生かかるローンを組んでも口くいなスペースは確保する事が出来ません。金利も入れて4〜5千万する住宅を買っても人生が終わる頃には価値もなく引き継いでくれる子供にも相続税と言った重税と兄弟等分しなければならぬ遺産相続では残す方が罪な事になってしまします。

今の日本の政治はコレデモかコレデモかと言うくらい国民に過酷な政治を行なっています。日本は表面上は独裁国ではありませんが、特に戦後やっている事は戦前西洋の国々が植民地で住民を過酷な条件で搾取したより多くの金額を税金と言った形で搾取しているのです。

昔は働きの者は裕福になれたのですが今は働きの者は報われないのです。裕福になるには法律の裏を行くか、他人をだますかという日本人が恥として来た、汚い事をやらなければなりません。正々堂々という言葉は死語になりつつあります。情けない事ですが今の大人はそのように洗脳されて来たのです。お金さえ儲ければ幸せになれる、そしてセレブとしてマスコミに報道され優越感に浸れると。

心ある若者は(若者でなくても)そのような価値観を今こそ捨てて誇りある人生を歩み始めて欲しいと思いいこのブログを書いていきます。

今書いている事もこれから書いて行きたい事もすべてが空理空論ではありません。これまで私が76年歩んで来た失敗

も沢山あった人生から書いています。後になればこう有って欲しい、こうすればという希望を入れて行きますが失敗を重ねながら今まで楽しい人生を歩んで来たことが筋になっています。

人は故郷を持つという安心感是否定出来ません。田舎の現状では解決出来ない何かがあったので多くの人は大都会に出て生活を始めたはず。そしてその人達も戦後からでも二代目になり三代目になって帰る事が出来る故郷を失って来ました。

私が故郷つくりを始めようと言い出したのは首都圏直下型地震や太平洋側の東南海大震災が近づいているとマスコミが騒ぎ出した事が最初の原因です。

これまでも何度も書いて来たように自然災害での死者の多くは人口密集地です。阪神大震災、東日本大震災、遠くは関東大震災などです。日本の国は災害大国と言われるくらい自然災害の多い国です。これだけはどうしようもありません。

せつかくローンを組んで確保したと思っただけ家も震災で壊滅しローンだけが残ってしまったという人達も多く居ました。再建のためもう一度ローンを組む悲劇に見舞われた人さえありました。だったらどうするか?方法は沢山あるはず。国民が一人一人、自分ならどうするか?を考える事から初めて、考えに従って行動する事です。

だけど自分一人では心細い、家族でも考えがまとまらない、相談する人も無い行政に相談しても答えが出ない。親族に相談しづらいなど多くの原因があります。

そのような人達のために力になる組織を作る事が出来ないか?と考えて立ち上げたのが「ZPO 法人」「こっこ屋本舗」なのです。

今書いているこのブログがZPO 法人「こっこ屋本舗」の正式な方針ではありませんが理事長の私が薦めて行きたい方針であるのです。

ZPO 法人の活動の中で「宗教」と「政治」については活動が認められていません。「宗教」の活動は私の職業である神職を通じて、政治的な発言行動は私の信条を個人として書いて行きます。

イギリスの貴族にならう・仕事は街で住まいは田園で

老後の生活を自然豊かな田舎で、今は「田舎暮らし」と言う言葉が流行っていますが、街で暮らしながら定年後田舎に移っても不便だけが目についてがっかりするのが関の山です。

田舎の古民家を買って改装して住むことが流行になっていますが手放された古民家を見て来た私にとっては家が建つほどの改装費をかけて挙げ句に不便な田舎に愛想をつかして不満タラタラ。ヤフな町の人には耐えられない自然もあります。一夜漬けの田舎っぺでは耐えられません。リゾート気分分で来るべきではないと思います。その上でなお、私は若いカップルがここで子育てと自分たちの故郷つくりをするべきだと薦めたいのです。その理由は「田舎暮らし」と言うから暗くて、惨めな印象を与えるのです。日本では以前から「田舎もの」と言う言葉は人を差別する言葉でした。

人は長年差別されると本人も差別されてアタリ前のように萎縮してしまします。

だから私は「田舎暮らし」という言葉は避けて「田園生活」と呼ぶようにしたいと思っています。

イギリス貴族の田園生活と言えは少しは希望がわいて来ます。男も週末には家族と一日中(2日も)水入らずで楽しむ事が出来、これからの生活の主流を自分たちが作るのだと前向きに考えれば良い事です。イギリス貴族は地方に荘園として領地を持っていましたから自らを卑下するような気持ちではなく、自然豊かな所で子育てをして都会で政務や事業を行うという日本人から見たら格好の良い生活形態がとれたのです。

日本の田舎が衰退の一途をたどるのは世間を知らず地方に閉じこもったままだからだと思っています(その内に地方の人が見れば怒るような原因について書いてみます)。

イギリスのように(今やアメリカも)心ある人達は家族を郊外に移し自らは都会で働き週末は家族と田園生活を楽しむと言った形態が流行になればよいと思っています。

日本も将来は都心はオフィスや工場となり、住居地帯はスラム街になると思われます。その前に若い夫婦は出来るだけ早く田園生活を実現する先駆けになると言う使命感を持って欲しい。田園に住み、子育てをして、大学は都会で、仕事は単身で何処へでも、家族は田園生活を楽しむ、定年後は夫婦でゆとりある余生を送る。

この、「田園生活」の構想は今の日本ではマスコミでは言いたい人が有ってもいえない事です。コメントーターや有識者と言う輩が言えは次からは声が力力ラナクなくなってしまします。

1) 夫は街で働いて生活の糧を家庭に持

ち帰る(働いて給料を稼ぐと言う事)。
2) 妻は田園で子供を育て教育をする。
基本はたったこれだけです。

このような生活は世界の距離が短くなったから出来る事です。ただ一カ所だけに留まっていると距離が短くなった事に気が付かない。それにしてもイギリス貴族たちの距離感はずいぶんです。世界に植民地を持ち世界の海にこぎ出して行った国民だから出来た事ですね。貿易立国をうたう日本人も特亜の国の国民と違い日本の国に愛着を持って居る人種ですから世界に羽ばたいても晩年は落ち着ける故郷を持ちたいものです。

定年後は、溜めたお金を無駄使いして、街中のマンションで病院通いの末、死を待つだけの人生なんてミジメではないでしょうか？

500万円と二百坪の土地に家族4人で住む家を作る

この故郷づくりの計画は二百坪以上の土地を手に入れ300万円です。夫婦と小さな子供が2人が生活出来る家を建てる事です。家が300万円だからといって自分で建てるではありません。基礎も作ってもらい、電気も水道も敷いてもらい、家の中には風呂もトイレも台所もある事が前提です。そして、夏は涼しく、冬は暖かい構造が必要です。私自身の試案があり設計事務所や工務店などの知り合いにこの予算で出来る家の設計図を要請し始めました。

大きさは床面積は10坪です。これにロフトを付けて寝室又は物置に確保します。有効な面積は15坪ほどになります。小さなマンションくらいの空間は確保出来ます。必ず住める家がこの価格で完成させる事が出来るかと確信していますが、

実際にこの計画で住もうと言う若い夫婦が実行してくれるのかかかっています。突拍子も無い計画ですから疑心暗鬼でなかなか踏み切れないと思いますのでサンプルを作って家族で一晩体験宿泊してもらおう事が大切だと思っています。

しかし、まだ活動を始めていない(活動は4月からの予定)「NPO法人 こっこ屋本舗」です。資金も無く、私自身も商売をやっていた20年近く前なら何でもなかった500万円ですが、今や少ない年金と息子からの仕送りで暮らしている後期高齢者ですから、これから一年かけて来春には着工出来るように資金調達を考えます。それまでにはいろいろ案を出し、発表して皆さんのアドバイスを批判、援助を頂いて実行したいと思っています。

まず土地の二百坪ですが一坪1万円以内の土地を求めます。候補地は通勤には不便な過疎地になります。その上宅地ではありません。完全な畑地でもありません。後ろに(北側に)山林が広がり南が開けた明るい場所なら充分です。土石流の恐れが無い所を探します。丁度、我が家の立地のようなところ、日本全国 過疎地だらけですからいくらでもあります。家が出来れば家族が移住して、まず小さくても家庭菜園を作ります。畑地でもなくても野菜は作れます。家のまわりは190坪あるので、開墾から始めるのですね。昨年私は4坪ほどを書獣に荒らされないように囲ってキュウリ、トマト、ナス、サラダ菜等何種類かを植えました。夫婦では食い切れんぐらいになりました。地面は石ころ混じりで石を除いたら地面が低くなるのでホームセンターで一番安い土を買って来て使いました。今年はその上に敷地内の枯れ葉を積んでおい

た腐葉土を入れてみます。

三年もすれば雪の降らない時期の野菜は自給自足が出来ます。周囲には未開墾の土地があるので家族で力を合わせて野菜づくりに励めば売りに出せるぐらいい野菜の収穫は出来ます。

何も無い所に小さな家を建てるのにも将来の一族の故郷の家を造るので計画的に作らなければなりません。

地震には、平屋(リフトはあるが)です。地震を軽く出来ます。地震で屋根に押しつぶされる心配がありません。台風には、南側に防風林を植えます。気があるだけで強風も思い切り和らぎます。この種類は落葉樹にします。夏は風と日差しを遮ってくれます。冬には日差しを室内まで入れてくれます。

大雨には、川の流から離して建てて後ろの山が崩れないような地形を選びます。竜巻は、山間部なら発生しません。津波は、海からはなれた高台なら安心です。

地震や火事は、運が悪かったと諦めて建て直しても500万円なら2重ローンで苦しい目に遭う事も少ない。

子供が大きくなれば土地はあるので増築はやり放題、物置も造り放題、ローンも500万円を10年で返済計画を立てれば三〜四千万円を一生かけて返す事を考えれば楽勝です。

購入資金の借入れを何処からするか? 私は地元の農協がやってくれば安心だと思っています。借入れの金利はどうするか? 私はこれこそ故郷再生資金として国が農協に払ってくれば良いと考えています。

収入はどうするか? これこそ男の出番です。単身赴任で大都会で働けば良いのです。そのために企業は単身赴任者の

ために仕事場の近くにワンルームの社宅を作れば人材の確保が出来るし営業期間には従業員は脇目も振らず働いてくれます。そして、金曜日の夕方には家族との田園生活が待っている我が家に帰って2日間子供や妻との充実した時間を過ごす事が出来ます。

ここまで書くと、妻の立場は田舎で子育てだけか? とジェンダフリーとか言うウルサイ人達が、女の主権を振りかざしますが、昔から日本の家族は女が中心でした。その中心の主婦が我が家の将来を担う子供たちを教育する事が大切なのです。大切に育てた子供は親が年老いたら大切に守ってくれます。女性を労働力と言いつつ低賃金で使おうとする今の日本の産業界は考え直すべきだと思います。人を安くこき使うために外国に工場を移したり、また日本に戻したり、犯罪の予備軍になる外国人労働者の移民を考えたりする事は税金のために国を売り渡す売国奴と変わりがありません。日本人ならよく考えて、苦しいときも労使がお互いに日本の国の永遠の繁栄を考えて欲しい。

中村重行氏

京都北山京北細野町・京北田貴町の店主。昭和40年〜平成7年まで登山用品店、運動具店他を経営。ヒマラヤ・ブモリ登山隊長等を務める。64年前から京北北山山中に住み、趣味は書獣駆除などと称し鹿や猪の猟。靖國神社を守る裁判代表補助参加人。周囲は「道楽宮司」と呼ぶが本人一向に痛痒を感じず。「今年は喜寿ですがおかげさまで元気に700法人こっこ屋本舗」を立ち上げました」と意気軒昂。